

1 はじめに

柏崎市立高柳小学校は、柏崎市の自然豊かな山あい建つ、小さな学校である。地域の過疎化は深刻であり、子供たちの数は急激に減少し、平成30年度の全校児童数は13名である。



子供たちは大変素直で、学習にもきちんと取り組み、学力は高い。一方、保育園、小学校、中学校と固定された人間関係の中で育つため、高校進学など環境が大きく変わった時に、良好な人間関係を築くことを苦手とする者も過去にはいたと聞く。

このことから、当校においては、たくましさの育成、人間関係形成能力の育成も大きな課題と考えている。

新潟県教育委員会の目指す人づくりは、「ふるさとへの愛着と誇りを胸に、粘り強く挑戦し未来を切り拓く、たくましいひとづくり」である。

また、柏崎市教育委員会は、「将来を見据え、たくましく生き抜く子ども」「柏崎に愛着を深め、誇りを持つ子ども」の2つを目指している。

新潟県も柏崎市も、人口減少、少子化に対応すべく、「ふるさとへの愛着」「たくましさの育成」等、目指す人づくりは共通している。まさに、当校の目指す人づくりとも合致している。

そこで、これらを踏まえ、平成29年度、30年度の研究テーマを「ふるさとを愛し、たくましく生きる」人づくりとした。また、その具体的な取組内容として、次の4点を中心に、全教職員で取り組むこととした。

- (1) 地域行事への積極的な参加
- (2) 地域資源の活用
- (3) 楽しい体験活動・楽しい経験の蓄積
- (4) 他校との交流による人間関係形成能力の育成

ふるさとへの理解を深めるために、地域行事に参加したり、地域の伝統文化、自然、歴史といった地域の素材や資源を理解し、継承する活動を行う。

また、他校との交流の場を生かし、人間関係形成能力を育てたいと考えた。

2 取組の実際

(1) 地域行事への積極的な参加

① 全校児童による黒姫山登山の実施

当地域には、刈羽三山の1つで標高891mの黒姫山がそびえている。その黒姫山の山開きが毎年5月の第4日曜日に行われている。それに合わせ、日曜日を授業日として全校で登山を行っている。

これは、ふるさとの山を愛するとともに、粘り強さやたくましさを育てることもねらっている。入学して2か月の1年生にとっては、少々困難な登山ではあるが、地域の人の応援の声がけもあり、毎年全員が登頂に成功している。山開きに合わせた登山は、地域の人たちとの触れ合いの場にもなっている。



② 「狐の夜祭り」への参加

高柳の「狐の夜祭り」は、高柳三大祭りの一つである。地域にとっては大切な祭りである。これも、10月の第2日曜日に行われるため、この日も授業日として全校で参加している。ただ、参加するだけでなく、事前に「狐の夜祭り」実行委員長から来校してもらい、祭りのはじまりや思いをお話していただいた。また、祭りの提灯行列の先頭で笛を吹かれる音楽家の方にも来校してもらい、体育館での演奏と講話をいただいた。

このように、祭りを、どっぷりと体験できるよう、それに携わる人やものとの関わりを通して、体験活動を更に価値あるものにしたいと考えた。

子供たちは、自分たちで作った狐のお面を被り、行列となって山道を歩く。夜の山道に浮かび上がる、幻想的な提灯の長い行列を目の当たりにし、「うわぁ」と歓声を上げていた。6年生の1人は、「来年は、中学生として祭りの手伝いをするので、一生懸命に動きたい」と感想を述べていた。こうした価値ある本物体験による学びが、地域を愛し、地域への貢献意欲を高め、未来へとつながっていくことを願っている。

また、狐の夜祭りは、多くの観光客やカメラマンが

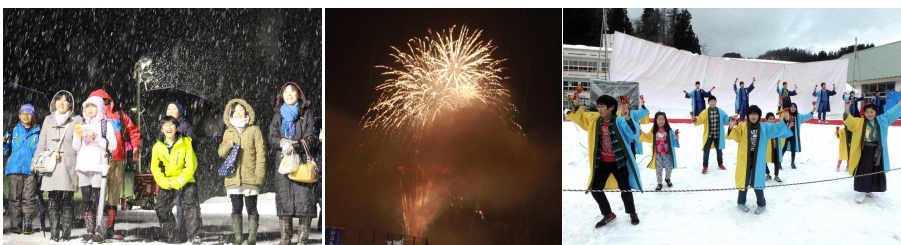
集まる。そこで、6年生は、総合学習の一貫として、観光客に取材をし、狐の夜祭りや高柳についての感想を聞く活動を行う。普段、全校13名という限られた人間関係の中で学校生活を送っているが、外国からの観光客や柏崎市長に、物怖じすることなくインタビューをする子供たちの姿が見られた。これまでの様々な経験から、人と関わる力が少しずつ身に付いていると感じている。そして、この活動を通し、外部の方の感想から、高柳の自然や人々の温かさを再認識し、地域を愛し、誇りに思える大切な学びの機会となっている。



③「高柳雪まつり “YOU・悠・遊”」への参加

「高柳雪まつり “YOU・悠・遊”」も、高柳三大祭りの一つである。毎年2月に行われるこの祭りには、高柳小学校、高柳中学校合同で、「よさこい」を披露している。この祭りは、高柳の雪を生かし、「雪上花火大会」「雪の遊び場」「スノーテニス」「スノーフラッグス」「巨大もちつき」などが行われる。子供たちは、この祭りも毎年楽しみにしており、地域の人たちと一緒に盛上げている。

子供たちの輝く瞳に映る、雪上花火は、きれいな思い出として、ずっと子供たちの心に明かりを灯していくことと思う。



（２）地域資源の活用

①「門出和紙」による手作りの卒業証書

高柳には、かつて多くの和紙職人がいたという。現在は門出地区に工房が1軒残るのみとなった。その工房から全面的な支援をいただき、6年生は自分の卒業証書を和紙で作っている。

当校の実践は、紙漉きだけに留まらず、和紙の原料である楮こうぞの木の栽培から行うところに特徴がある。

子供たちは、工房の方が、楮こうぞの木から和紙になるまでのいくつも大変な手作業に、手を抜くことなく、高柳の自然と向き合い、真剣に取り組む姿から多くのこ

とを学ぶ。そして、和紙独特の風合いと温かさ、強さは、心を込めて作った証だと知る。

この卒業証書作りという一連の活動を通して、子供たちは、工房の方のふるさとに根差した生き方を知り、地域を誇りに思う気持ちが高まってきている。



②「習字の先生」からの学び

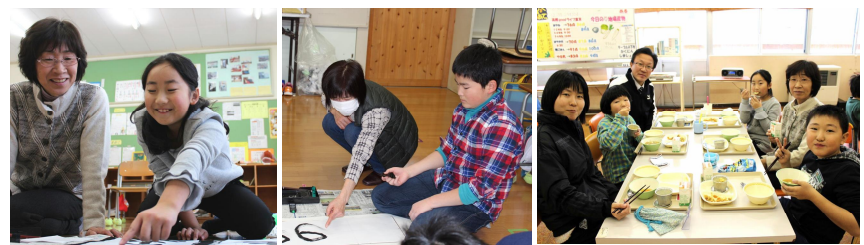
昨年度から、地域の書道に堪能な2名の方からおいでいただき、習字を指導していただいている。

当市において、学校支援地域本部事業は、市役所の生涯学習課の事業である。したがって、子供たちだけでなく、指導者にとっても有意義なものとならなければ生涯学習とはならない。

子供たちは、地域の先生から丁寧な指導を受け、大変喜んでいました。また、地域の先生も、「子供たち、かわいいですね」と言って、喜んで指導をしてくださった。

さらに、当校では、外部指導者の授業をできるだけ4校時にかかるようにし、授業が終わったらそのまま一緒に給食を食べてもらうようにした。それは、人との関わりを大切にしたいとの考えからであり、子供たちにも指導者にも、大変好評である。これも当校の特徴の1つである。

このように、地域の教育力をお借りしながら、地域ぐるみで子供たちを育てていければと考えている。そして、子供たちが大人になったとき、今度は自分たちが地域や学校に貢献しようとする意欲が高まり、「循環型の生涯学習」が地域に根付いていってくれればと願っている。



③「スキーの先生」からの学び

当校は、地元にあるガルルスキー場に、歩いて行くことができる学校である。これも、地域資源を生かした大きな特徴の1つである。

スキー授業では、地域のスキークラブの方が指導に来てくださっている。柏崎市内の小学校では、低学年がガルルスキー場にそり遊びに来るが、当校は、指導者が、ほぼマンツーマンで教えてくださるため、1年

生からスキーに乗っている。子供たちの上達は早く、大人になったら、自分も指導者になりたいという子供も出てきている。

高柳は雪の多い地域である。その雪を利用したスキー場、スキーの指導者といった地域の資源を十分に活用させていただいて、教育を行っている。



④ 田植え・稲刈り体験

当校では、毎年全校で田植えと稲刈りを行っている。田植えと稲刈りについては、地元のＪＡの方、子供たちの祖父母など、多くの方の支援をいただいている。

６年生は自分たちの経験をもとに、下級生にやさしく声をかけたり、教えてあげたり、手助けをしたりする。子供たちは、６年間の活動を通して、知識や経験を積みながら、地域と密接な関係にある米づくりを五感で学ぶ。

このように、当校では、田植えや稲刈りに関わらず、６年生になると最高学年としての自覚とリーダーシップが芽生え、その自覚が後輩を育て、次の６年生に継承されていく。この継承こそが、高柳の歴史と伝統を作ってきたといえる。小規模校だからこそ、１人１人の顔が分かり、みんなで声を掛け合い、助け合うことができるのである。この継承する素晴らしさを未来へとつないでいってほしいと願う。



⑤ 地域の芸能を体験するクラブ活動

当校のクラブ活動は、３年生以上が参加し、「四半的弓道」と「黒姫山太鼓」の２つを行っている。地域の資源を生かした取組である。いずれも地域の方が指導をしてくださっている。

「四半的弓道」は、矢を的に当てることももちろんであるが、それ以上に、「礼に始まり礼で終わる」ことを教えていただいている。子供たちも礼儀を重んじ、練習に取り組む姿が見られる。普段の生活の中では、なかなか経験することのできない集中力を磨いている。

また、「黒姫山太鼓」は、学習発表会と柏崎市刈羽郡小中学校合同音楽会で発表することになっている。１３名の子供たち１人１人が大切な役割を担っているた

め、みんなで集中し、心を合わせ、力を合わせないと、良い発表ができない。そのため、こちらにも集中して練習に取り組んでいる。全校で心を合わせ、１つのものが仕上がっていく素晴らしさを子供たちは経験し、自信にもつながっている。柏崎市文化会館アルフォーレという大きな会場でも、堂々と発表することができた。１３名の子供たちが精一杯演奏する姿に感動し、涙を流す観客も多くいた。

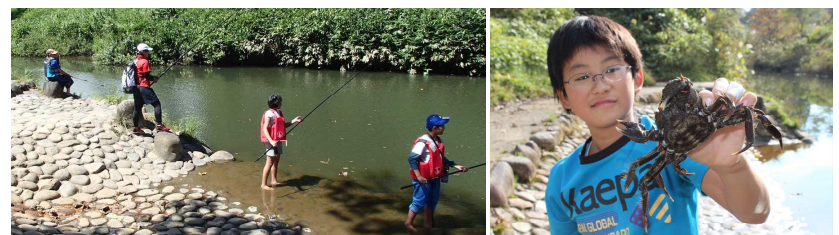


（３）楽しい体験活動・楽しい経験の蓄積

① 川での魚釣り、カニ採り体験

子供たちに、ふるさとを愛する心を育むには、楽しい体験活動、楽しい経験をさせることも必要だと考える。それら子供の頃の楽しい体験は、大人になってもしっかりと心に残る。そこで、地域の方から、川での魚釣りとカニ採りを教えていただいた。

川という地域の自然を相手に、魚を釣ったり、カニを採ったりする経験は、何事にも代えがたいものである。採ったときの喜びは、いつまでも、子供たちの心に残り、ふるさとを楽しみ、ふるさとを愛する気持ちが育ってくると期待している。



② 自然と触れ合う里山体験

高柳は、豊かな自然に囲まれている。地域の方が、子供の頃は、里山に入り、昆虫や魚を採ったり、木の実を採ったりと自然を相手に遊び回ったという。

しかし、今の子供たちは、家の中で、携帯ゲームをしたり、パソコンでYouTubeを観たりすることが多くなっている。地域の方は、そのような子供たちに、自然と触れ合い、自然の中で遊び、その経験の中で、さまざまなことを学び、ふるさとの良さを知ってほしいという思いがある。

そこで、地域の方が所有する里山を訪問し、里山体験活動をさせていただいた。子供たちは、柿、栗、バナナかぼちゃ、スイカ、糸瓜などを採らせていただき、

大喜びだった。まさに、他校では、経験することができないような貴重な体験をさせていただいた。

この体験を通して、「ふるさとの良さをたくさん感じることができた」と感想をもつ子供がいた。



（４）他校との交流による人間関係形成能力の育成

当校は、２つの学校と交流を行っている。

１つは同じ柏崎市内の米山小学校で、夏と冬の年２回の交流を行っている。

もう１つは、東京都にある新渡戸文化小学校という新渡戸稲造が初代校長だった小学校である。

米山小学校は、今年度、全校児童が25名という海に面した小規模校であり、当校とともに、人間関係形成能力の育成に努めている。

そこで、夏は当校が米山小学校を訪問し、冬は米山小学校からこちらに来てもらい交流する。それぞれ海と山といった自然を生かした楽しい活動を行っている。それらの活動の中で、人間関係づくりを学んでいる。柏崎市刈羽郡の親善陸上大会で会った時に声をかけ合ったり、手紙のやりとりをしている子供もいる。

一方、新渡戸文化小学校は、毎年８月の下旬に、３箇所に分かれて、宿泊体験学習を行う。そのうちの１つが高柳を訪問する。普段、なかなか接することのできない都会の子供たちとの交流も貴重なものと捉えている。

新渡戸文化小学校とは、ブナ林の散策、豚汁・ご飯・お好み焼き作り、昔のゲームなどの活動を通して、交流を深めている。これらの活動も地域の方が支援をしてくださっている。

毎年、高柳を訪問する子供もおり、すぐに打ち解け、仲良く活動する姿が見られる。

両校との交流は、まさに、同世代の子供たち同士が関わる貴重な交流の場となっている。声のかけ方、関わり方、協調性など、多くのことを学ぶ機会となっており、今後も交流を継続していきたい。



３ まとめ

（１）成果

今年度前期の児童アンケートでは、「学校が楽しい」「行事やいろいろな活動で、めあてをもち、最後まで粘り強く取り組むことができる」「相手の気持ちを考えて活動したり遊んだりしている」の３つについて、肯定的な意見が、いずれも100%だった。

地域の行事においては、「これからも毎年参加したい」「自分にできることを手伝いたい」などの意見が見られた。また、学校田の稲刈りが終わった後は、「家の田んぼで手伝う時が来たら、稲を刈ったり、まるけたり(束ねたり)したい」との感想も見られた。

保護者アンケートでも、「お子さんは、何事にも最後まで粘り強く取り組むことができる」という項目について、肯定的な意見が92%だった。

さまざまな行事における子供たちの作文等で、子供たちは地域の人たちへの感謝の気持ちを持ち、将来は自分も高柳の力になりたいと書く。このことから、ふるさとを愛する心が育ち、少しずつではあるが、たくましさも身に付けていると考えている。

（２）課題

通常、学年単位で行うような行事であっても、当校は全校で取り組むことがほとんどである。職員の多忙感、児童の疲労感を生まないように配慮することが行事を継続していく上での課題である。

（３）今後に向けて

高柳地区は、現在、20世帯を割る集落が半数以上に上る。今後10年以内に消滅する集落が出てくることも予想される。

そのような状況において、当校では、ふるさとを愛する子供を育てるべく、「ふるさとを愛し、たくましく生きる」をテーマに教育を推進してきた。

子供たちには夢があり、目指していく道も１人１人違うはずである。

しかし、高校や大学に行き、就職しても、また、住むところが変わったとしても、子供たちの成長を見守り、育ててくれたこの高柳への感謝の気持ちを忘れず、いつまでもこの高柳を大切にする、そんな子供たちに育てることが、今、学校に求められていることではないかと考えている。

そのことを全教職員で共通理解を図り、今後も、地域、家庭と手を携えて、「ふるさとを愛し、たくましく生きる」人づくりに、全力で取り組んでいきたい。

平成30年度 **高柳小学校グランドデザイン**

柏崎市教育委員会

【目指す子ども像】

- ・将来を見据え、たくましく生き抜く子ども
- ・柏崎に愛着を深め、誇りを持つ子ども

新潟県教育委員会

【目指すひとづくり】

- ・ふるさとへの愛着と誇りを胸に、粘り強く挑戦し未来を切り拓く、たくましいひとづくり

目指す子供の姿 (H30年度 共通キーワードから)

“ふるさとを愛し、たくましく生きる”

高柳小学校
教育目標

進んで学び 思いやりのある たくましい子

知

■目指す姿

「自己の学びを振り返り、主体的に学ぶ児童」

- 課題やめあてを意識して学習に取り組めたとする児童が80%以上 (児童アンケート)
- 課題を明確にし、児童が「何を学んでいるか」を意識させ、授業を行えたという教師が80%以上 (教師アンケート)
- 振り返りを通して、学び方がわかったり、自分の成長に気付いたりする児童が80%以上 (児童アンケート)
- 家庭学習学年×10分以上できたとする児童が80%以上 (児童・保護者アンケート)

■手立て

- 課題提示、主体的・対話的な学習活動、まとめ、振り返りを意識した授業を進める。
- 振り返りを認め合う場を設ける。また、教師が児童の振り返りを見取り、賞賛するようにする。
- 宿題の出し方を工夫し、家庭と連携した学習習慣定着の取組を推進する。

徳

■目指す姿

「自他を大切にし、粘り強く挑戦するたくましい児童」

- 自分の考えをもち、進んで意見を言ったり、行動したりしようとしたと答える児童が80%以上。(児童アンケート)
- めあてをもち、最後まで取り組むことができたとする児童が80%以上。(児童アンケート)
- 相手の気持ちや立場を考えて、活動したり、遊んだりできたとする児童が80%以上 (児童アンケート)

■手立て

- 道徳の授業やSSTを推進する。
- 諸活動の中で、自分の考えをもちたり、話し合ったりする活動場面に重視する。
- 縦割り班活動や学級活動において、立場に応じた自分のめあてをもたせる場面や振り返りを行う場面を設ける。
- 小・中の連携によるいじめ見逃しゼロスクール運動を推進する。
- 他校との交流活動を推進する。

体

■目指す姿

「健康と安全を心掛け、自律的に生活する児童」

- 高柳goodライフカードにおいて、前回を超える達成数になった児童が毎回70%以上。(高柳goodライフカード)
- 昨年度の体力テストで、記録が落ち込んでいる「柔軟性」「筋持久力」の改善を図る。記録更新児童80%以上。(体力テスト・授業内の測定)
- けがや感染症の予防に意欲的に取り組めたとする児童が80%以上。(チェックカード、児童・教師アンケート)

■手立て

- 高柳goodライフカードの取組を継続し家庭と連携して児童の望ましい生活習慣の定着を目指す。
- 体育の授業前後に準備運動・整理運動の時間を設けて柔軟性を高める。
- 普段行わない運動に触れることで、全身の筋力を高める。
- 感染症の予防行動を周知し、時季に合わせた行動ができるように指導する。

■高柳小中学校一貫教育 「地域を学ぶ 地域で学ぶ 地域と学ぶ “高柳学”」

地域目標 **「高柳に学び、高柳を愛し、ふるさと高柳を誇りに思う子供」の育成**

- ㊦ たくましい高柳の子
- ㊧ かしい高柳の子
- ㊨ やる気いっぱい高柳の子
- ㊩ 仲良くできる高柳の子
- ㊪ 希望をもつ高柳の子

■学校・家庭・地域 重点連携事項

- 家庭：家庭学習の習慣化、望ましい生活習慣の維持
- 地域：地域行事での児童の役割の確保と指導
- 高柳・地域で子供を育てる会：学習をはじめとするボランティア活動、あいさつ運動の取組 他



グランドデザインに研究テーマ(目指す子供の姿)を明確に記し、地域、家庭の理解と協力を得ながら、全教職員で教育活動を進めています。



平成30年度 全校児童

力を合わせて がんばります!



新潟 新潟 2017年(平成29年)5月29日(月)

毎 日 新 聞

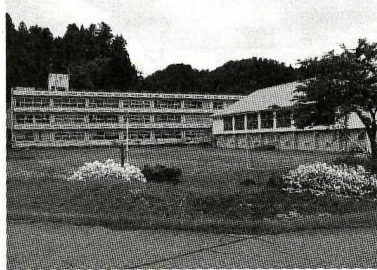
黒姫山で山開き 園児ら200人登頂
本格的な夏山シーズンを控え、刈羽三山の一つ、黒姫山(891m)で28日、山開きがいった。保育園から約200人、お年寄りまで約200人が山頂を目指し、山頂の鶴川神社で訪れる人々の安全を祈った。参加した地元・高柳の全児童18人は、柏崎市高柳町の磯之辺登山口を出発。途中、石仏に手を合わせたり、慣れ親しんだ山菜に興

味を示したりしながら山登りを楽しんだ。約1時間で登頂した登山者は、神社で安全を祈願、無料で振る舞われた豚汁で冷えた体を温めた。母親と一緒に初登頂した保育園児、大嶋詩さん(6)は27日に誕生日を迎えたばかり。「お父ちゃんから頑張った」山頂は曇りがちだったが、晴れた日には日本海や魚沼の山々が一望できる。この日は他の刈羽三山、八石山(518m)でも山開きがあり、雲峰・米山(993m)は6月3日の予定。【内藤陽一】



山頂で声をそろえて「ヤッホー」と叫ぶ高柳小の児童たち＝刈羽三山の一つ、黒姫山で

地域の人たちも大勢参加した黒姫山登山。力を合わせて山頂を目指した11月28日。



地域の人に
愛される学校

高柳小6年
春日 桜

楽しく★ゆよく

学校レタ－散歩

私たち高柳小は今年度、全校18人で生活しています。少人数で大変なこともたくさんありますが、全校みんなで協力して何事もがんばっています。

高柳小の一番よい所は、全校が仲良しなところなんです。少人数なので全校で活動することが多いです。そんな時は一人一人が声を出し協力しています。そのおかげで絆が生まれ、仲良くなります。

また、高柳にはいつでも協力し合ってくれる優しい地域の方がいます。黒姫山登山やスキー教室、田植えや稲刈りなど、いつもたくさんの方々が来てくださり、楽しく安全に取り組むことができます。いつも感謝しています。

その他にもたくさんの方々が地域行事に参加しています。地域行事に積極的に関わること、高柳のよさと高柳の人の素晴らしさがよく伝わります。心の底から地域の人を尊敬しています。

このように高柳小は全校の仲が良く、地域の方から愛されています。この感謝の気持ちをあいさつなどで伝えていきたいです。



柏崎日報

2018年(平成30年) 11月7日(水曜日)より

新潟日報

2018年(平成30年)8月3日(金曜日)

海っ子、山っ子を招待

柏崎



米山小学校と高柳小学校の全校児童計38人が、笠島の笠島海浴場で交流会を行った。写真は、水浴場で交流会を行った11月28日。手作りのいかだやボートに乗り、一緒に海を楽しんだ。

米山小が海の近くに、高柳小は山間部にあることから、両校が参加した。米山小が児童手作りのいかだやボートを用意し、一緒に乗った。児童たちはオールで漕いだり、バタ足をしたりして操作し、水しぶきを浴びながら楽しんだ。浜辺ではスイカ割りなども行った。

米山小6年の豊高遥君(12)は「力を合わせてオールが漕げて面白かった。普段より多くの友達と遊べてうれしい」と笑顔で話した。高柳小6年の栗岡一道君(11)は「海で遊べて気持ちよかったです。冬は米山小のみんなに雪を使った遊び方を教えたい」と話した。

合唱や合奏
心一つに

小中合同音楽会
8日まで

柏崎市・刈羽郡小中学校

校合同音楽会(柏崎市刈羽郡学校教育研究会音楽教育研究部主催)が7日からアルフォーレで始まった。各校が息の合った合唱、合奏を響かせ、日頃の研さん成果を披露した。8日まで。



日頃の練習成果を発表した小中学校合同音楽会＝7日、アルフォーレ

合同音楽会は互いの交流を図る場として、今年で61回目。34校が練習の成果を発表した。開会のあいさつで笠井克人・高柳中学校長は「素晴らしいホールで発表できる感謝を込めながら、各校の良さがステージで生かされることを期待したい」と呼び掛けた。

初日午前の部は高柳小全校児童13人による合唱「空にジャンプ!」、太鼓合奏「高柳八景」で幕開け。太鼓はクラブ活動で取り組んでおり、4年・矢代翠さんは「緊張したけど楽しかった。いい演奏ができた」と笑顔を見せた。

8日は午前の部が9時半、午後の部が1時半開演。

新潟日報

2018年(平成30年) 10月9日(火曜日)より

キツネ行列 幻想の夜

柏崎・高柳
30回の節目

地元の民話を基に地域を盛り上げようと始められた柏崎市高柳町の「狐の夜祭り」が7日、栃ヶ原、漆島の両地区で行われ、住民手作りのイベントは30回の節目を迎えた。白いキツネ面をかぶって白装束を着た住民ら約150人が、ちようちんを持って夜道を歩き、辺りを幻想的に照らした。

日が暮れた午後6時半すぎ、ちようちんを持ったキツネの行列が、観客の集まる会場近くにお目見えした。豊一牧分の大油揚げを



キツネ姿の住民らが夜道を歩いた「狐の夜祭り」＝7日、柏崎市高柳町

